

サンデー コラム



中村正・秋田屋本店社長

ミツバチと人間の関わりは古く、歴史を遡るに、この地で旧跡や文献にその足取りが数多く残されています。

スペインのラ・アラニャ洞窟の壁画からは、紀元前6000年頃に描かれた、ミツバチの巣から採蜜している人の姿が発見され、その頃すでに蜂蜜を珍重していたことが伺われます。

昨年秋にイベリア半島

ミツバチからの贈り物



なかむら・ただし 1951年、岐阜市生まれ。業界団体の県製菓協会会長。みつばちの家庭理事。県養蜂組合連合会長を務める。県経済同友会代表幹事。県研究開発財団評議会会長を務める。

誌に論文発表、また、特許取得等を推進してきましたが、毎年新たな発見の連続で、ミツバチの潜在性、素晴らしさに感服しています。

蜂蜜が連想されますが、ミツバチは刺すのが特徴で怖用されてきました。わがその生産物は蜂蜜とがなる人もいますが、その社の目標として、さらに称され、蜂蜜はじめ王乳の液は神経系統に良い小生のライフワークとして(ローヤルゼリー)、蜜と伝承され、東洋医学の、その一つ一つを科学的に究明し、より効果的刺す蜂針療法は、近年急に、効率的に活用できる(ローヤルゼリー)中の花粉荷(ポーレンロー刺す蜂針療法は、近年急に、効率的に活用できる)、プロポリス、蜂針速に認知されてきています。また、ミツ食品、生活物資として利ははじめ愛知県の医学・薬に邁進し、元氣な長寿社

有益な六つの蜂産品

学系の大学と研究会を進め、学会発表及び学術専門す。

新しい年を迎え、六つ